

1 段落ごとに内容をつかむ 問いかけの文

(3) (2)の表をもとに、それぞれの段落の内容を一文でまとめなさい。

4	3	2	1

◎段落の内容をまとめるには①

まず、話題をとらえることが大切です。特に、問いかけの形で読者の注意をひいている部分は、話題を示していることが多いので、注目しましょう。

今回の文章の場合、①段落の初めにある文が「なぜ……でしょうか。」と問いかけの形になっています。この問いに対する答えが各段落で説明されているので、問いかけの内容にそって各段落の話題をとらえることとなります。

※別冊の解説も読んで、文章の構成を確認しましょう。

1つ1つの世界を広げよう

1 あとの①～③の「 」に入ることはとして最も適当なものを、次のうちから選んで書き入れましょう。

- ・ 気の遠くなるような
- ・ 目のくらむような
- ・ 目が回るような

① がけの上から見下ろすと、「

」高さだった。

② いろいろな用事が重なって、「

」忙しさだ。

③ この宝石は、「

」長い時間、地中にねむっていたにちがいない。

書いてみよう 「気の遠くなるような」「目のくらむような」「目が回るような」のどれかを使って、自由に文章を作りましょう。内容は何を書いても構いません。ただし、二文以上で書きましょう。

学習の振り返り

- 問いかけの文に着目して読むことができました。
- 段落ごとに内容をまとめることができました。
- 学習した感想を書きましょう。

◎ 文章の内容をまとめるには③
 文章の中で、あることばが別の表現で言いかえられることがあります。言いかえによって簡潔に言い表されたり、くわしく説明されたりします。
 自分でまとめるときには、同じことをくり返す必要はありません。状況によってふさわしい表現を利用して簡潔にまとめましょう。

- (2) — 線②は、何と言いかえられていますか。
 (3) — 線③は、どんな人のことを言いかえた表現ですか。
 (4) — 線④は、これよりあとでどのように言いかえられていますか。
 (5) (1)～(4)を参考にして、へへへにことばを入れて、文章の要約を完成させなさい。
 搾取タイプの人は、心の底では①
 その不安に対する反応が敵意ある攻撃性、つまり②
 本当は他人と③
 だが、かれらは人と結びつきたいという気持ちと同時に④
 があるので、力で相手を⑤
 びつきを感じようとする。
 不安な人ほど、「負け犬」や「勝ち組・負け組」という解釈をし、自分から離れていった人を⑥
 〓で不安に怯えている。 〓として
 〓することで安心感が得られるの 〓させて言うことを聞かせ、結
 〓と解釈する。

1 つの世を広げよう

1 次の表現を使って、打ち消しの意味を強調する文を作りましょう。
 ① かれはみんなに命令しているが、グループのリーダーではない。
 「～でもなんでもない」を使って。

② ここにいる人たちはあなたの存在を気にしない。あなたをおそれない。
 「～ないし、～も…ない」を使って一文で。

書いてみよう 「～でもなんでもない」「～ないし、～も(い／し)ない」のどちらかを使って、自由に文章を作りましょう。内容は何を書いても構いません。ただし、二文以上で書きましょう。

学習の振り返り

- 言いかえ表現に着目して読むことができた。
- 文章全体の内容を要約することができた。
- 学習した感想を書きましょう。

- (1) この文章は、**①**段落で全体のテーマを示し、**②**段落以降で具体例を挙げて説明する構成になっています。**②**と**③**段落を二つのまとまりに分けたとき、二つ目のまとまりはどんな内容を挙げて説明をしていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア 一つ目のまとまりの内容と視点を変えるための事例。
 イ 一つ目のまとまりの内容を補強する筆者の体験。
 ウ 一つ目のまとまりの内容とは無関係な事例。
 エ 一つ目のまとまりの内容とはちがう筆者の体験。
- (2) — 線①「書いて鍛える」とありますが、筆者が、自分で文章を書いてみることをすすめる理由を、「サッカー」「野球」の例と対比して八十文字以内で書きなさい。

- (3) — 線②「書く練習をせざるを得なくなりました」とありますが、筆者は、文章を書く練習をする前とあとではどう変わりましたか。②は三十文字以内で、③は四十文字以内で書きなさい。

② 練習をする前
(子どもころ)

← 書く練習

③ 練習をしたあと

作文 — 線部「自覚的に努力する」とありますが、あなたが「自覚的に努力」した体験・できごとを具体的に一つ挙げ、「自覚的に努力する」ことによってどんなことが起きたか、あるいはどんなことができるようになったかを、次の〈条件〉に合わせて書きなさい。(解答らんは別冊にあります。)

- 〈条件〉① 二百字以内で書くこと。
 ② 二段落構成で書くこと。

③ 一段落目には、あなたが「自覚的に努力」した行動について書き、二段落目には、その結果、どんなことが起きたか、あるいはどんなことができるようになったかを書くこと。

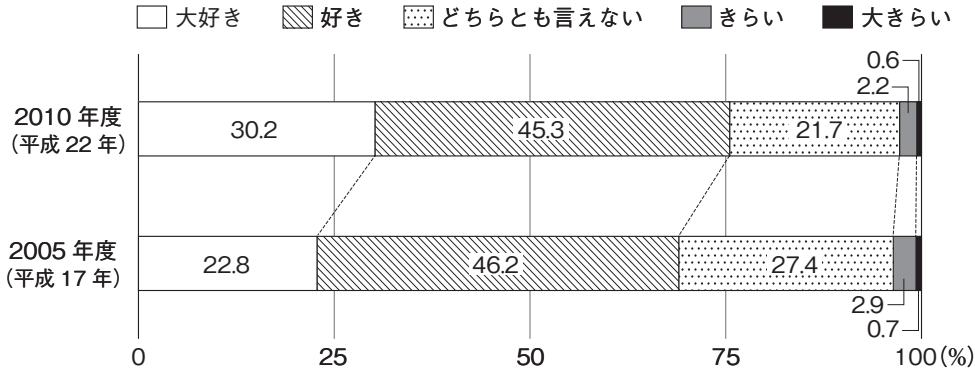


学習の目標

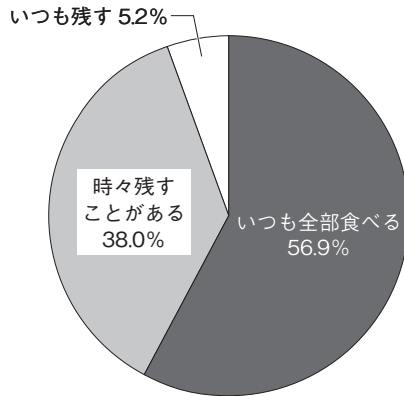
- 資料を根拠に自分の意見をまとめる手順を学ぶ。
- 資料をもとに作文を書く。

1 「学校給食」について作文を書きます。次の資料は、学校給食について全国の小学五年生を対象に行った調査結果です。これを見て、あとの問いに答えなさい。

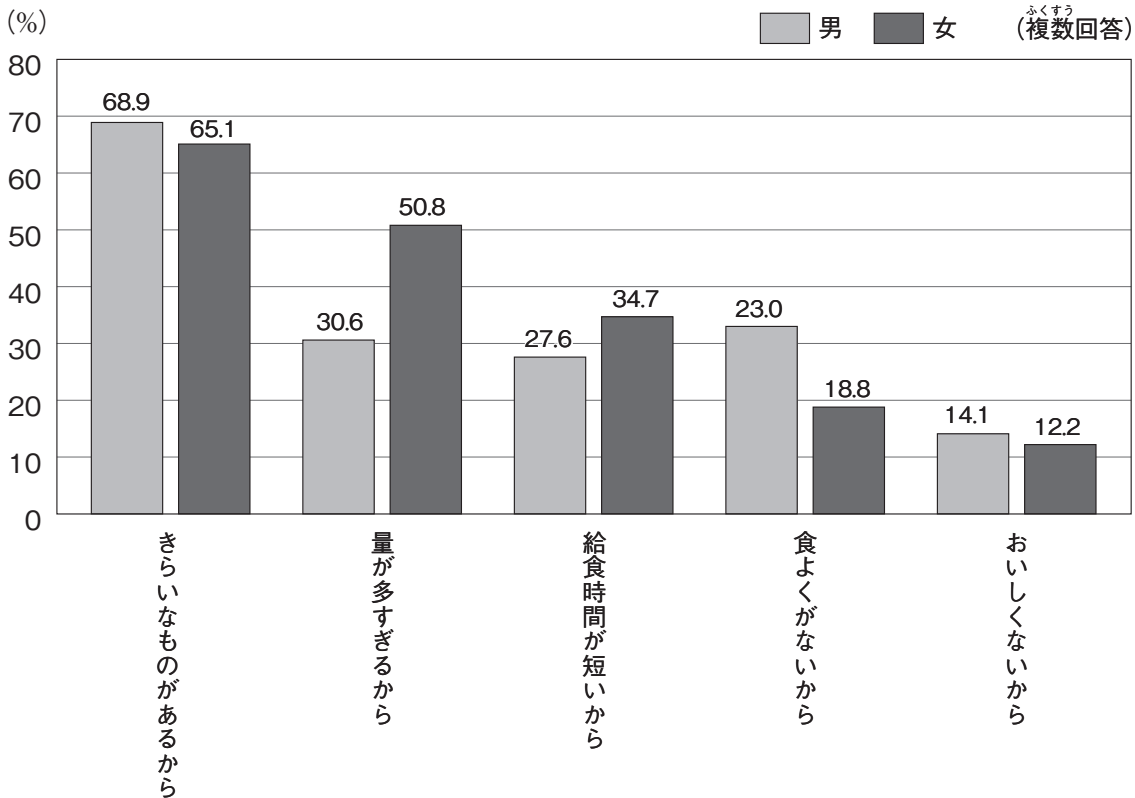
【資料1・A】 学校給食が好きか



【資料1・B】 学校給食を残さず食べるか



【資料2】 学校給食を残す理由



(資料1・2… 独立行政法人日本スポーツ振興センター「平成22年度 児童生徒の食生活実態調査」をもとに作成)



作文

給食の食べ残しを減らす工夫について、二百字以内で書きなさい。二段落構成で、一段落目には【資料1】からわかることを、二段落目には【資料2】と自分の体験とを関連させながら考えたことを書きなさい。(作文の解答らんは別冊にあります。次の準備作業ステップ1〜3を進めてから書きましょう。ステップ4は書いたあとのチェックです。)

○ステップ1

資料から事実を読み取り、特徴的な数値に着目してまとめる。また、複数の資料から考えられる問題点、課題などを読み取って、作文につなげる。

(1) 【資料1・A】【資料1・B】で、印象に残ったこと・気になったことを、それぞれ書きなさい。

B A

(2) (1)のA・Bで挙げた内容を、六十字以内で書きなさい。

○ステップ2 資料のテーマにそって考えたことを挙げ、自分の経験とつなげて指定字数にまとめる。

考えるヒント

【資料2】の「学校給食を残す理由」を解消する方法や工夫を、自分の経験と結び付けていくつか挙げてみましょう。

経験

考えたこと

○ステップ3

二段落構成で、書くことを整理する。ステップ1・2で書いた内容を見直して取捨選択し、書こうと決めた内容に印をつける。

見直しポイント

- 見直したら、に✓をつけましょう。
- 一段落目は、資料の特徴的な内容を表しているか。
- 二段落目の具体例は、自分の考えにつながるものか。
- 一段落目に「資料からわかること」、二段落目に「考えたこと」を書くという構成で、二つをしっかりと区別しているか。

○ステップ4 構成にそって作文を書き、推敲する。

見直しポイント

- 見直したら、に✓をつけましょう。
- テーマにそった内容になっているか。
- あたえられた条件を守っているか。
- 主語・述語がきちんと対応しているか。
- 誤字・脱字がないか。指定字数の八割以上書けているか。